

「三宝通信」法話

浄土宗 天上山大念寺
住職 大島祥明



「故人への供養とは」

故人のことを思い出すときに、故人もこちらのことを思っている。故人を思い出すときに、故人はともにいる。〈思い出す・偲ぶ〉ということが故人に対するもつとも大切な供養になる。故人を思い、そのうえで、心の中で「どうぞ成仏してください」「どうぞ安らかに浄土に往生してください」と念ずる。その心は必ず故人に通じる。大切なのは、「心からの祈り」であって決して形ではない。

故人に対して「こうしてあげれば喜んでもらえるんじゃないか、こうしたら安心してもらえるんじゃないか」ということなど、できることをひとつでも実行することが供養になる。

●大島祥明住職著『死んだらおしまい、ではなかった』(PHP研究所刊)より抜粋。同著の問い合わせ☎03-3239-6257 (PHP研究所ビジネス出版部)

■1944年大阪市生まれ。仏教大学・同大学院修了(文修)、僧正。87年12月、船橋市上山町に大念寺開山。08年5月、同市馬込町に新寺移転。